兵庫県「災害廃棄物対策図上演習」が開催されました！
～災害廃棄物分野における図上演習の実施～

兵庫県では、阪神・淡路大震災から 20 年経過したことを契機に、平成 26 年度から市町・一部事務組合の職員を対象とした災害廃棄物対応に関する研修を実施しています。

平成 27 年 2 月に開催された「災害廃棄物対策ワークショップ」に引き続き、本年度は、10 月 29 日（木）に「災害廃棄物対策図上演習」が開催されましたのでご紹介いたします。なお、この図上演習は、前回のワークショップ同様に国立研究開発法人国立環境研究所と（公財）廃棄物・３R 研究財団が内容の設計や当日の進行等についてお手伝いをさせていただきました。

※前回の研修の様子 https://dwasteinfo.nies.go.jp/cd/practice/special_150202hyogo.pdf

冒頭、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課の生井秀一課長補佐から「大規模な災害時に備えた災害廃棄物対策」として、平時の備えから大規模災害発生時の対応まで、切れ目のない災害対策を実施・強化すべく整備され、特例措置などが盛り込まれた改正廃棄物処理法や D.Waste-Net、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における災害廃棄物対応についてご報告いただきました。

続いて、図上演習プログラムとなりましたが、まず、「図上演習をはじめるにあたって」として、参加者に対して、以下の５項目を図上演習の目的として示したうえで図上演習を開始しました。

①『目標による災害対応の管理』を考える。
②災害時の『組織論的機能』を考える。
③兵庫県「災害廃棄物処理の相互応援に関する協定」の活用を考える。
④災害廃棄物処理実行計画に盛り込むべき項目を考える。
⑤気づきを得る。

今回の図上演習は、仮想の県市の廃棄物部局の職員という役割を与えられた参加者４２名が、３市１県の４グループに分かれ、事務局から次々に付与される状況（被災状況、住民からの問い合わせ等）に対応しつつ、災害廃棄物の処理方針を検討していくというスタイルの演習となります。なお、演習では複数の市区町村が一度に被災する規模の台風による豪雨水害（床上・床下浸水被害、一部地域では堤防決壊による全壊・半壊被害あり）を想定しました。

＜図上演習の流れ＞

図上演習の流れは、事前に仮想の県市の設定、災害及び被害の設定、焼却施設や仮置場

候補となりうるオープンスペースのリストを提供し、上述した図上演習の目的を認識してもらった上で、各グループに災害（演習）に備えた方針や役割分担をする作戦タイムを持っていいただきました。

その後、演習時間がスタート。事務局から付与される状況について対応を行いつつ、最終的なアウトプット（記者会見形式にて発表）に向けて、各グループ（仮想の県市）の対応状況と検討していただいた災害廃棄物の処理方針について討議していただきました。

【演習開始前の状況付与】
○仮想県に台風が襲来し、県内の仮想市３市において堤防決壊を含む水害が発生。
○3 市の被害規模は様々であるが、仮想県で整備されている市区町村間の応援協定を使う必要がある規模の被害である。
○各市に対しては被害棟数等の被災状況データを提供。
○各市の焼却施設やオープンスペースリストの情報を提供。
○現実時間の５分を災害想定時間の１時間として演習を進める。　　　　等

↓

【作戦タイム】
○グループ内での状況認識
○グループ内での役割分担　　　　　　　等

↓

【演習】
○１３：００～１６：００までの３時間の実施。５分毎に様々な状況付与を行う。

↓

【発表】
○記者会見形式による検討結果の発表＆質疑の実施。

仮想都市で仮想災害に対応する自治体職員という役割を唐突に与えられた参加者は、少なからぬ戸惑いを受けた様子でしたが、演習が進むうちに真剣な議論が交わされるようになっていました。

最後には、記者会見形式での発表ということで、知事役、市長役を担った各グループのファシリテーターも役になりきって、記者会見を行っていました。

図上演習後の感想には、「演習や実体験に基づく講演を通して、想像できなかったところが頭に浮かぶ部分ができた。」、「うまくやることではなく、十分議論するということが目的であったと思う。」「災害廃棄物処理計画を作らなければとは思っていたが、今日の研修を通して必要性を感じた。」という感想が寄せられ、当初の目的である『気づき』等につながったと考えられます。しかし、一方で、各想定の精度の甘さ、検討に必要な前提条件のあいまいさ、情報のやり取りの方法に関する提案など、図上演習の運営に対する意見もいただきました。今回は廃棄物分野における初の図上演習であったため、設計や運営上、十分でない部分もあったかと思いますが、今後も兵庫県と共同し、より良いものを作り上げていきたいと思います。

議論の様子

兵庫県においては、次年度以降もこうした研修を計画しているとのことです。こうした取り組みを、他自治体における取組の参考として役立てていただければと思います。